

# 2022年度版 環境経営レポート


(2022年4月1日～2023年3月31日)

私たちは人と人を結び  
技術と価値を繋げます



白山商事株式会社

ISOアクション21認証・登録番号 0001382



# 環境経営方針



## 【基本理念】

白山商事株式会社は、お客様が必要とする商品を販売する際には、環境に配慮した商品やカーボンオフセット商品など環境にやさしい商品の提供を推進し、快適で豊かに暮らすことができる社会の実現に貢献するとともに、業績拡大に向けて環境経営に取り組んでまいります。

## 【行動方針】

1. お客様の課題や要望にこたえるため、当社の持つ技術やネットワークを通じて、環境配慮型商品の販売を推し進めます。
2. 事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、次の環境目的を定めて環境保全の継続的改善を推進いたします。
  - (1) 二酸化炭素排出量の削減
  - (2) 廃棄物排出量の抑制
  - (3) 水使用量の抑制
  - (4) 化学物質の抑制
3. 環境経営活動を推進するために、環境経営マネジメントシステムを構築し、定期的に見直し継続的改善に努めます。
4. 当社に適用される環境関連法規制及び契約を遵守します。
5. 全構成員に環境経営方針を周知徹底し、継続的に環境教育を実施することにより、構成員の環境に対する知識を高め、環境に配慮した事業を促進します。
6. 地域社会の一員として、環境コミュニケーションに積極的に取り組み、当社のホームページに環境経営方針および環境経営レポートを掲載し、当社の環境への姿勢を広く内外に示してまいります。

2003年6月1日（制定）

2018年10月1日（改定）

白山商事株式会社  
代表取締役社長 山本廣明



# 目 次

1 当社の概要

---

2 環境活動組織図

---

3 環境活動の責任と権限

---

4 環境目標及び達成

---

4-1 目標達成状況（2022年度）

---

4-2 直近3年間達成状況の推移（2020年度～2022年度）

---

4-3 中期目標値（2023年度～2025年度）

---

5 2022年度 環境目標達成のための活動

---

6 2022年度 環境活動の取組結果と評価

---

6-1 目標達成の結果と評価

---

6-2 その他の取組状況

---

7 2022年度 環境活動の取組内容

---

8 関連法令法規への違反及び訴訟等の有無

---

9 代表者による全体評価と見直し結果

---

付 環境配慮型商品の紹介

---

## 1. 当社の概要

事業者名 : 白山商事株式会社

URL : <http://www.hakusanshoji.co.jp>

所在地 : (本社) 東京都豊島区南池袋1丁目10番13号 荒井ビル6階

(物流センター) 東京都品川区勝島1丁目4番11号 東京倉庫(株)勝島倉庫317号棟

(埼玉事業所) 埼玉県飯能市仲町12番10号 飯能サンプラザB1階

代表者 : 山本 廣明 / 代表取締役社長

坂本 憲郎 / 第2営業グループ 次長

環境担当者 : 森田 義和 / 総務部長 (環境委員会事務局)

連絡先 : 電話番号 (03) 5958-9411

FAX 番号 (03) 5958-9415

E-mail : morita@hakusanshoji.co.jp

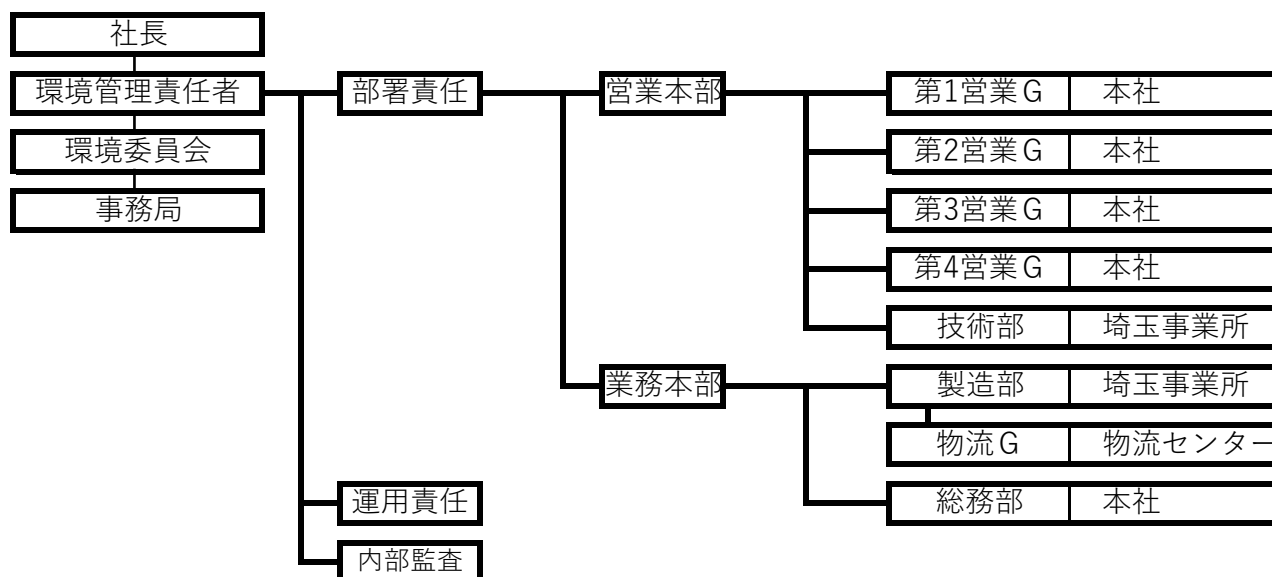
事業内容 : 通信機器類・金属圧接溶接機等の販売

事業規模 :

事業年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高 (百万円)	1,007	873	990
従業員数	23	24	23
・本社	17	17	17
・物流センター	2	2	2
・埼玉事業所	4	5	4
延床面積 (m <sup>2</sup> )	675	675	675
・本社	288	288	288
・物流センター	225	225	225
・埼玉事業所	162	162	162

※ 当社は3月決算。2022年度は「2022年4月1日から2023年3月31日」迄。

## 2. 環境活動組織図



※ 当社の事業区分は『本社・物流センター・埼玉事業所』の3拠点。

### 3. 環境活動の責任と権限

社長	① 環境マネジメントシステムの最高責任者
	② 環境経営方針の決定
	③ 環境管理マニュアルの承認
	④ 環境管理責任者の任命
	⑤ 環境委員会の委員を任命
	⑥ 環境マネジメントシステムの評価と見直し
	⑦ 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	① 環境マネジメントシステムの確立、運用、維持及び改善
	② 環境管理マニュアルの審議
	③ 「環境経営活動計画表」の審議
	④ 「環境経営活動計画表」の承認
	⑤ 環境経営目標の達成状況の承認及び不適合扱いの決定
	⑥ 教育訓練計画及び結果の承認
	⑦ 内部監査員を任命
	⑧ 内部監査計画及び監査結果の承認
	⑨ 環境マネジメントシステムの評価用資料の作成と社長への報告
	⑩ 環境の負荷及び取組の自己チェック表作成
	⑪ 手順書の承認
部署責任者	① 部署内への環境マネジメントシステム活動の周知
運用責任者 (共通)	① 環境経営目的・目標の達成手段の立案
	② 環境経営目的・目標の周知と徹底
	③ 環境経営活動計画表の作成
	④ 3ヶ月毎の達成状況について環境管理責任者に報告
	⑤ 教育訓練の実施と報告
	⑥ 不適合の是正処置についての立案・実施・報告
運用担当者	① 運用責任者のサポート
環境委員会	① 環境マネジメントシステムに関する基本計画の策定
	② 環境管理マニュアルの制定・改訂の審議
	③ 環境負荷の特定
	④ 環境経営目標の設定
	⑤ 環境経営目標の達成状況についての審議
	⑥ 教育訓練計画の審議と教育担当者の決定
	⑦ 環境経営レポートの審議
	⑧ 内部監査報告書の審議
	⑨ 運用責任者の決定
	⑩ 環境マネジメントシステム見直し評価の社長指示を受け、具体策の審議
事務局	① 環境文書及び環境記録の保存
	② 公開すべき環境文書及び環境記録のHAKUSAN-NET（社内用Web）への掲載
	③ 環境委員会議事録の作成・保管
内部監査員	① 内部監査を実施し、結果を的確に評価し、環境管理責任者に報告
	② 客観的事実に基づく監査を実施する為に必要な資料の提供及び説明を被監査部門へ求めることが出来る。
構成員	① 環境に関する業務の実行

## 4. 環境目標及び達成

### 4-1. 目標達成状況（2022年度）

項目	目標	実績	達成率	
電気使用量の削減	本社	20,000	14,832	135%
	物流センター	3,000	2,944	102%
	埼玉事業所	21,000	21,315	99%
	電気使用量 kWh/年	44,000	39,091	113%
LPG使用量	kg/年(目標管理対象外)	-	35	-
二酸化炭素排出量	電気使用量 kg-CO <sub>2</sub> /	20,020	17,786	113%
	LPG使用量 kg-CO <sub>2</sub> /	-	104	-
	二酸化炭素 kg-CO <sub>2</sub> /年	20,020	17,890	-
紙使用量の削減	コピー用紙使用量 kg/年	218	190.0	115%
	段ボール使用量 kg/年	365	381.0	96%
環境配慮型商品の販売	環境配慮型商品販売 千円	106,000	89,347	84%
節水	本社	-	111.0	-
	物流センター	15.0	11.0	136%
	埼玉事業所	31.0	27.0	115%
	水使用量 m <sup>3</sup> /年	-	149.0	-
廃棄物排出量の把握	本社 可燃ごみ	-	185.1	-
	物流センター 可燃ごみ	-	32.6	-
	埼玉事業所 可燃ごみ	-	79.8	-
	可燃ごみ(合計) kg/年	-	297.5	-
	本社 不燃ごみ	-	0.0	-
	物流センター 不燃ごみ	-	12.1	-
	埼玉事業所 不燃ごみ	-	1.3	-
	不燃ごみ(合計) kg/年	-	13.4	-

※ 達成率 = 目標 / 実績

※ 埼玉事業所の電気代には、試験用の高温高湿層の電気代（年間合計3,550kWh）も含まれる。（目標値には含まず）

※ 二酸化炭素・実排出係数は「2018年度の排出係数（調整後）："0.455（t-CO<sub>2</sub>/kWh）"」を使用

#### ～電気使用量の削減（二酸化炭素排出量の削減）～

##### 【目標設定の根拠】

[本社] コピ対策（テレワークの実施）効果が出ており、前年度より目標値を1,000kWh削減にて設定した。

[物流センター] エアコンの更新による節電効果により、前年度より目標値を100kWh削減にて設定した。

[埼玉事業所] 今年度も同様の21,000kWhを目標値とした。

##### 【実績】

[全社] 各部署の構成員の協力があり、全社を通じて113%の実績となり、目標達成となった。

#### ～紙使用量の削減～

##### 【目標設定の根拠】

[本社] コピー用紙使用量について、昨年に引き続き、テレワークによる電子化推進の効果が出ていることから、更なる削減目標235kg（50,000枚以下）に設定した。

[物流センター] ダンボール箱使用量について、今年度は主力商品であるアルミ線用端子の生産量の増加が期待出来るため、昨年度と同様の継続目標値にて設定した。

##### 【実績】

[本社(コピー用紙)] 電子化の推進および複合機の更新効果により、無駄な印刷出力抑制に繋がり、目標達成となった。

[物流センター(段ボール)] アルミ線用端子の端子サイズの大径化の需要増により、相乗して段ボール箱の使用サイズが大きくなったことで、箱重量増加のため、目標未達成となった。

### ～環境配慮型商品の販売～

#### 【目標設定の根拠】

[全社] 主力商品であるアルミ線用端子およびその他の環境配慮型商品も増やしていくことから、更なる販売増に期待。今年度も継続目標値にて設定した。

#### 【実績】

[全社] 今年度は回復基調の兆しがあり、前年度と比較して35%の売上アップとなったが、主力のアルミ線用端子の売上で補填しきれず、目標未達成となった。

### ～節水（水使用量の抑制）～

#### 【目標設定の根拠】

[本社] ビル全体の使用量からの配賦となるため、目標設定は行わず、使用量の把握のみとする。

[物流センター] 前年度同様、ぎりぎりの目標設定値と判断。目標値の変更は行わないこととした。

[埼玉事業所] 今年度も人員の増減を考慮し、前年度実績値と同じ実績値にて設定した。

#### 【実績】

[本社] 把握値のみの管理ではあるが、節水に関するアンケートを取り、節水意識を高める環境活動を実施した。

[物流センター] 社員の日々の努力により、目標達成となった。

[埼玉事業所] 今年度は埼玉事業所の構成員1名が他部署へ応援に行ったりと増減が激しい状況ではあったが、無事に目標を達成することが出来た。

### ～廃棄物排出量の把握（廃棄物排出量の抑制）～

[全社] 削減目標の設定は行わず、実績値の把握のみとしているが、月毎の『可燃・不燃・資源ごみ』の集計を行い、四半期ごとに前年度実績に対する増減理由の精査を行い、排出量を削減（抑制）する環境活動を実施している。

#### 4-2. 直近3年間達成状況の推移（2020～2022年度）

項 目		2020年度			2021年度			今年度（2022年度）		
		計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率
電気使用量の削減	本社 電気使用量	22,000	17,759	124%	21,000	15,250	138%	20,000	14,832	135%
	物流センター 電気使用量	3,100	2,980	104%	3,100	2,398	129%	3,000	2,944	102%
	埼玉事業所 電気使用量	19,000	23,803	-	21,400	18,769	114%	21,000	21,315	99%
	電気使用量 kwh/年	44,100	44,542	99%	45,500	36,417	125%	44,000	39,091	113%
	二酸化炭素 kg-CO <sub>2</sub> /年	20,066	20,267	99%	20,703	16,570	125%	20,020	17,786	113%
紙使用量の削減	コピー用紙使用量 kg/年	241	205	118%	235	190.2	124%	218	190.0	115%
	段ボール使用量 kg/年	365	271	134%	365	281.7	130%	365	381.0	96%
環境配慮型商品の販売	環境配慮型商品販売 千円	97,000	62,801	65%	100,600	66,098	66%	106,000	89,347	84%
水使用量	本社	-	125.0	-	-	119.0	-	-	111.0	-
	物流センター	15.0	14.0	107%	15.0	11.0	136%	15.0	11.0	136%
	埼玉事業所	27.0	19.0	142%	25.0	31.0	81%	25.0	27.0	93%
	水使用量 m <sup>3</sup> /年	-	158.0	-	-	161.0	-	-	149.0	-
廃棄物排出量	本社 可燃ごみ	-	92.9	-	-	145.6	-	-	185.1	-
	物流センター 可燃ごみ	-	30.4	-	-	30.9	-	-	32.6	-
	埼玉事業所 可燃ごみ	-	72.1	-	-	98.0	-	-	79.8	-
	可燃ごみ kg/年	-	195.4	-	-	274.5	-	-	297.5	-
	本社 不燃ごみ	-	6.0	-	-	7.7	-	-	0.0	-
	物流センター 不燃ごみ	-	14.4	-	-	9.2	-	-	12.1	-
	埼玉事業所 不燃ごみ	-	1.7	-	-	3.5	-	-	1.3	-
	不燃ごみ kg/年	-	22.1	-	-	20.4	-	-	13.4	-

※ 二酸化炭素・実排出係数は「2018年度の排出係数（調整後）："0.455（t-CO<sub>2</sub>/kWh）"」を使用

※2）埼玉事業所の電気代には、試験用の高温高湿層の電気代（年間合計3,550kWh）も含まれる。（目標値には含まず）



#### 4-3. 中期目標値（2023年度～2025年度）

項 目		今年度実績	2023年度	2024年度	2025年度
電気使用量の削減	本社	14,832	19,000	19,000	19,000
	物流センター	2,944	3,000	3,000	3,000
	埼玉事業所	21,315	20,000	20,000	20,000
	電気使用量（合計）kwh/年	39,091	42,000	42,000	42,000
	二酸化炭素（合計）kg-CO <sub>2</sub> /年	17,786	19,110	19,110	19,110
紙使用量の削減	コピー用紙使用量 kg/年	190	218	218	218
	段ボール使用量 kg/年	381	365	365	365
環境配慮型商品の販売	環境配慮型商品販売（千円）	89,347	106,000	116,000	116,000
節水	本社	111.0	※水使用量実績値の把握のみとする。		
	物流センター	11.0	14.0	14.0	14.0
	埼玉事業所	27.0	31.0	31.0	31.0
	水使用量（合計）m <sup>3</sup> /年	149.0	--	--	--
廃棄物排出量の把握	本社 可燃ごみ	185.1	※排出量の実績値の把握とする。		
	物流センター 可燃ごみ	32.6			
	埼玉事業所 可燃ごみ	79.8			
	可燃ごみ（合計）kg/年	297.5			
	本社 不燃ごみ	0.0			
	物流センター 不燃ごみ	12.1			
	埼玉事業所 不燃ごみ	1.3			
	不燃ごみ（合計）kg/年	13.4			

※ 二酸化炭素・実排出係数は「2018年度の排出係数（調整後）：”0.455（t-CO<sub>2</sub>/kWh）”」を使用

※ 埼玉事業所の電気使用量には、目標値には含まれない試験槽の電気使用量も含まれる。

※ 今年度は中期目標値を一律としたが、次年度以降の中期目標値は段階的に削減を行っていく。

#### ～電気使用量の削減（二酸化炭素排出量の削減）～

[本社] テレワークの浸透化に伴い、更なる削減に向けて中長期目標の見直しを実施した。

[物流センター] ぎりぎりの設定値であると認識している。中長期目標の見直しは行わない。

[埼玉事業所] 過去2年間の実績値から削減できる余地あり。更なる削減に向けて中長期目標の見直しを実施した。

#### ～紙使用量の削減～

[本社] コロナ禍も落ち着きつつあることから、積極的な展示会の出展・客先との直接訪問が増えることを想定して、中長期目標の見直しは行わない。

[物流センター] 前年度は、アルミ線用端子の大径サイズの出荷が増えたため、段ボール箱の使用サイズが大きくなり、目標未達成となったため、中長期目標の見直しは行わない。

#### ～環境配慮型商品の販売～

[全社] アルミ電線接続端子の売上が伸び悩み、目標達成が困難となったが、売上が徐々に回復基調にある。次年度は前年度の目標値に再チャレンジすることとし、以降は中長期目標の見直しを実施した。

#### ～節水（水使用量の抑制）～

[本社] 目標設定は行わず、使用量の把握のみとする。（タンポルのため、目標値を設定出来ないため）

[物流センター] 目標値はぎりぎりの設定値であるため、次年度以降も継続目標とする。

[埼玉事業所] 構成員の増減の懸念があり、次年度以降も継続目標とする。

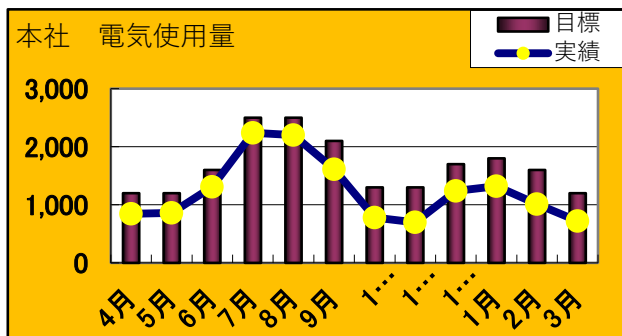
## 5. 2022年度 環境目標達成のための活動

目 的		達成のための活動計画
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	<p>エアコン設定温度：冷房時28℃、暖房時19℃を基本とする</p> <p>冷房使用は、原則就業時間内とする</p> <p>昼休み時間、照明消灯の励行</p> <p>OA機器未使用時電源OFF励行（本社、物流センタ）</p> <p>クールビズ、ウォームビズの実施</p> <p>残業時、電気機器の使用はこまめに個別ON/OFF</p>
廃棄物排出量の把握	可燃ごみ分別の徹底及び排出量の計量	<p>分別確認パトロールの随時実施</p> <p>分別ルールの厳守・徹底</p>
	不燃ごみ分別の徹底及び排出量の計量	<p>分別確認パトロールの随時実施</p> <p>分別ルールの厳守・徹底</p> <p>梱包材料の再利用化</p>
	資源ごみ指定分別処理の徹底	<p>分別確認パトロールの随時実施</p> <p>分別ルールの厳守・徹底</p>
水使用量の抑制	節水	節水意識の向上
環境に優しい商品の販売	環境配慮型商品の悪版	<p>HPの積極的活用</p> <p>環境商品販売品目を増やす</p>
紙使用量の削減	コピー用紙使用量の削減	<p>社内伝達書類のメール化の徹底</p> <p>試し印刷時の裏紙使用の徹底</p> <p>期限切れ保管書類の再利用の徹底</p> <p>裏紙利用制限の緩和により、使用可能な裏紙量を増加させた</p> <p>※A4・A3を対象に管理</p>
	段ボール箱使用量の削減	<p>段ボール箱の再利用</p> <p>簡易包装の徹底</p> <p>毎月使用量を公表し、使用量を意識する</p> <p>商品にあった箱かどうかを確認しあう</p>

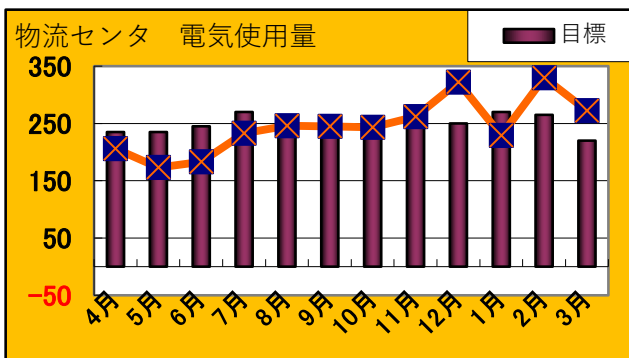
## 6. 2022年度 環境活動の取組結果と評価

### 6-1. 目標達成の結果と評価

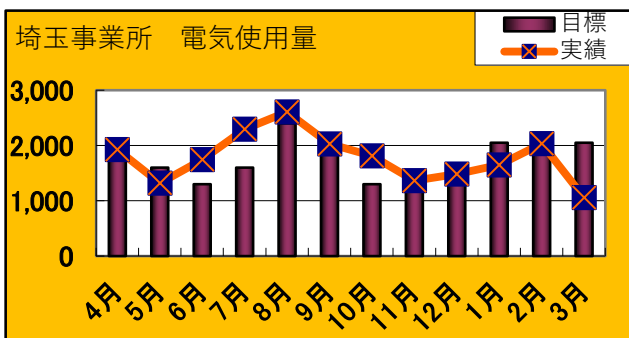
#### 【1】電気使用量（二酸化炭素排出量の削減）



2022年度目標	2022年度実績
20,000 kWh	14,832 kWh
9,100 kg-CO <sub>2</sub>	6,749 kg-CO <sub>2</sub>
<b>達成率 134.8 %</b>	



2022年度目標	2022年度実績
3,000 kWh	2,944 kWh
1,365 kg-CO <sub>2</sub>	1,340 kg-CO <sub>2</sub>
<b>達成率 101.9 %</b>	

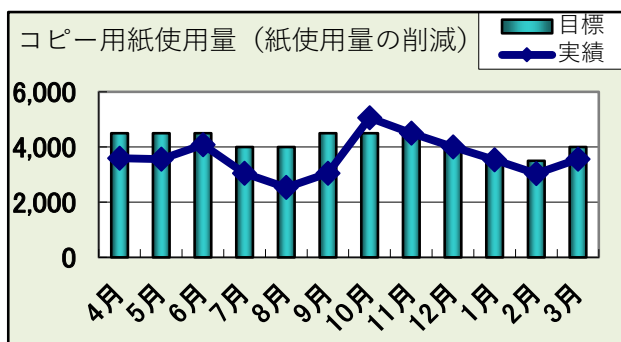


2022年度目標	2022年度実績
21,000 kWh	21,315 kWh
9,555 kg-CO <sub>2</sub>	9,698 kg-CO <sub>2</sub>
<b>達成率 98.5 %</b>	

#### 【評価】

本社では、前年度同様にコロナ禍対策によるテレワークを推奨したことにより、出勤率の抑制につながり、結果として目標を下回ることが出来た。物流センタは無理（我慢）しない程度の節電に努めたい。埼玉事業所は試験装置（高温高湿槽）の稼働も含めると、目標を若干目標値を上回ったが、結果として、全社では113%の達成率となっている。

【2-1】 コピー用紙使用量（紙使用量の削減）

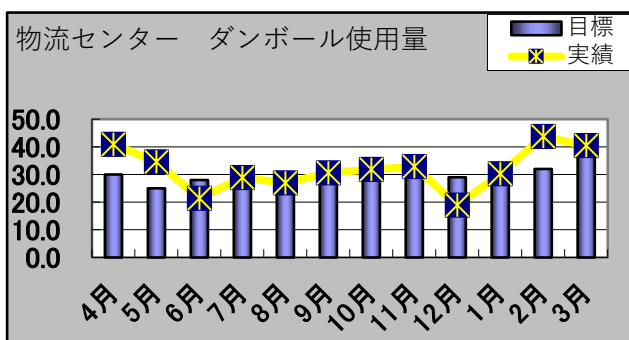


2022年度目標	2022年度実績
50,000枚	43,570枚
重量換算) 218 kg	重量換算) 190 kg
<b>達成率 114.8 %</b>	

【評価】

当社では資料の電子化促進を進めており、ファクス用紙等の「プリントアウト可否」の判断を行った上で「パソコンフォルダ」への収納管理が出来ることと、極力無駄なプリントアウトをしないよう心掛けていることから、コピー用紙使用量の削減に大きく貢献している。今年度も無事に目標を達成する事が出来た。

【2-2】 段ボール使用量（紙使用量の削減）

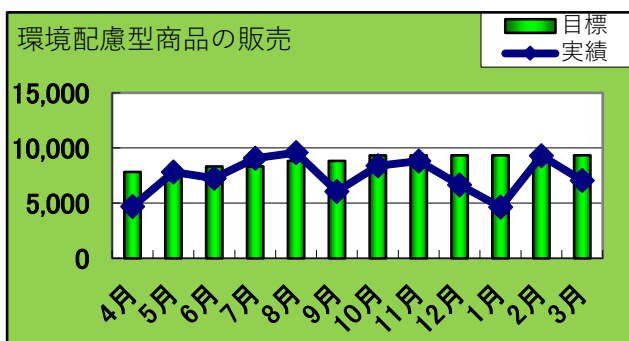


2022年度目標	2022年度実績
365 kg	381 kg
<b>達成率 95.8 %</b>	

【評価】

今年度も主力のアルミ線用端子の売上が伸び悩んだものの、大径サイズ'のアルミ線用端子の出荷が増え、相乗して段ボール箱の使用サイズ'が大きくなったことで、目標達成が困難となった。

【3】 環境に優しい商品の販売促進

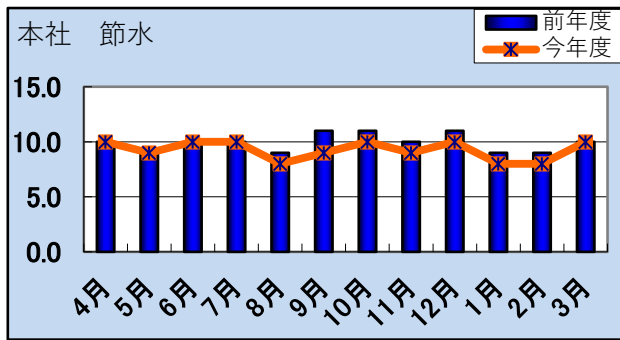


2022年度目標	2022年度実績
10,600 万円	8,935 万円
<b>達成率 84.3 %</b>	

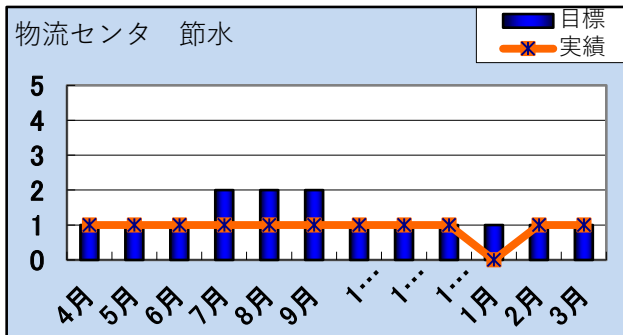
【評価】

今年度はレンジボックス（PCB保管容器箱）の駆け込み需要もあり、達成率84.3%（前年度は同計画で62%の達成率）と目標達成に近づくことが出来たが、主力製品であるアルミ線用端子の売上補填までには至らず、目標未達成となった。コロナ禍も終息しつつあることから、是非とも来年度に期待したい。

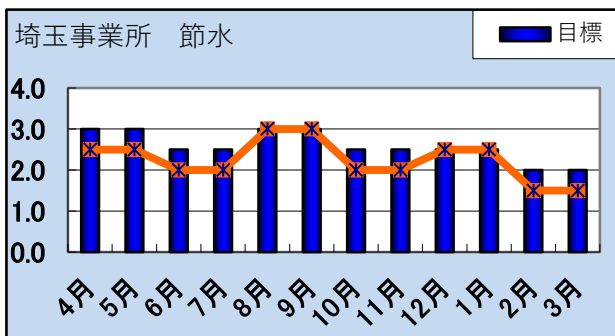
【4】水使用量の削減



2021年度実績	2022年度実績
119m <sup>3</sup>	111 m <sup>3</sup>
<b>対前年度比 93.3%</b>	



2022年度目標	2022年度実績
15 m <sup>3</sup>	11 m <sup>3</sup>
<b>達成率 136%</b>	



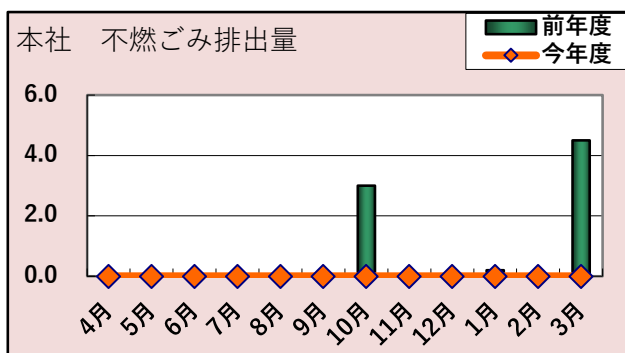
2022年度目標	2022年度実績
31 m <sup>3</sup>	27 m <sup>3</sup>
<b>達成率 114.8 %</b>	

【評価】

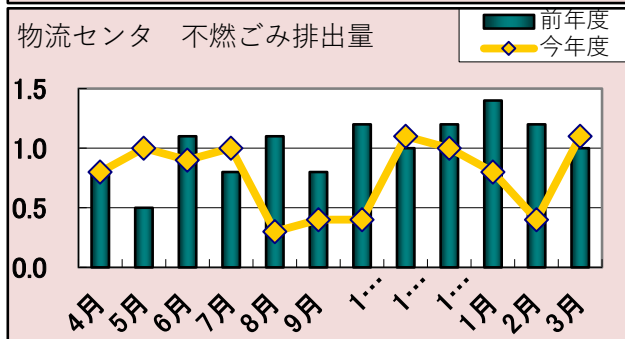
今年度も節水スロガンの掲示や節水に関するアンケート調査を実施したことにより、節水意識が高まり、目標を達成することが出来た。



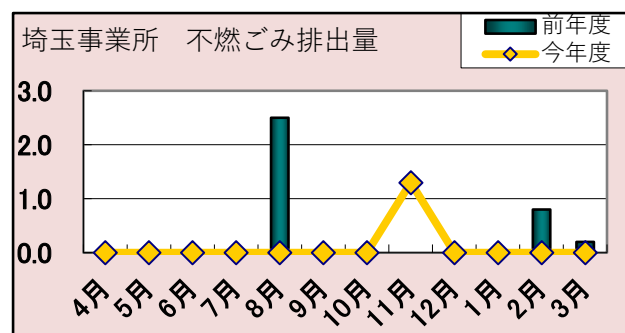
【5-2】 不燃ごみ排出量（廃棄物排出量の抑制）



2021年度実績	2022年度実績
7.7 kg	0 kg
<b>対前年度比 0 %</b>	



2021年度実績	2022年度実績
9.2 kg	12.1 kg
<b>対前年度比 131.5 %</b>	



2021年度実績	2022年度実績
3.5 kg	1.3 kg
<b>対前年度比 37.1 %</b>	

【評価】

本社は不燃ごみを出さないよう構成員同士で注意を払っていた。物流センタは廃棄処理が一巡しているため、埼玉事業所とも排出量が少なく抑えられている。

【5-3】 資源ごみ指定物100%回収（廃棄物排出量の抑制）

【評価】

全社にて指定資源ごみは100%の回収（再利用化含む）を達成している。なお、本社の資源ごみの分別については、テナビルの分別指示に準じている。

6-2. その他の取組状況

≪ 出荷用トラックからの二酸化炭素排出量削減 ≫

運送委託業者への指導事項は昨年同様実施し、特に「アイドリングストップ」の励行についての要請を行っている。今後も引き続き監視を行う。埼玉事業所でも物流センタ等への搬送の為、運送委託業者を使用しており、物流センタと同様に、「アイドリングストップ」の励行に付いて、出入り口にポスターを掲示するとともに、要請を行っている。

運送委託業者のトラックの【窒素酸化物および粒子状物質（NOx）のPM基準】順守されていることを確認した。今後も引き続き監査を行う。

## 7. 2022年度 環境活動の取組内容

目 的		達成のための活動計画
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	基本的なエアコン設定温度：冷房時28℃、暖房時19℃とする 扇風機の併用
		エアコンの使用は、原則就業時間内とする
		環境目標及び達成
		目標達成状況（2022年度）
		直近3年間達成状況の推移（2020年度～2022年度）
		残業時、電気機器の使用はこまめに個別ON/OFF
		未使用試験機のブレーカーOFF（埼玉事業所）
廃棄物排出量の把握	可燃ごみ排出量 （管理対象外）	分別ルールの厳守・徹底の為に、分別確認パトロールを随時実施する。
	不燃ごみ排出量 （管理対象外）	分別ルールの厳守・徹底の為に、分別確認パトロールを随時実施する。
		梱包材料の再利用化
	資源ごみ指定分別処理の徹底	分別ルールの厳守・徹底の為に、分別確認パトロールを随時実施する。
水使用量の抑制	節水	節水意識の徹底
		節水スローガンの掲示
環境に優しい商品の販売	環境配慮型商品の拡販	HPの積極的活用
		環境配慮型製品（4品目）の積極的拡販
		全員による積極的PRの実施
紙使用量の削減	コピー用紙使用量の削減	資料・書類の電子化への働きかけ
		期限切れ保管書類の再利用の徹底
		使用枚数記録への記入を徹底する
	段ボール箱使用量の削減	段ボール箱の再利用
		簡易包装の徹底 毎月使用量を公表し、使用量を意識する 商品サイズに合わせた包装



## 8. 関連法規への違反及び訴訟等の有無

当社に関係する環境関連法規等は下記の通りですが、下記のように遵守状況を2023年3月に確認した結果、違反はありませんでした。また、当局からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去にありません。

法令法規等名称	遵守状況 (確認済：○)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB廃棄物特措法）	○
品川区廃棄物の処理および再利用に関する条例	○
豊島区廃棄物の発生抑制、再利用による減量および適正処理に関する条例	○
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律	○
特定家庭用機器再商品化法	○
消防法	○
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	○
埼玉県環境基本条例	○
埼玉県地球温暖化対策推進条例	○

## 9. 代表者による全体評価と見直し結果、及び今後の活動方針

経営における課題とチャンスの明確化で記述した通り、『売上アップ=営業力と技術力の向上』が不可欠であると考えます。

それには社員のスキルアップが重要で、社員の知識向上や資格取得のサポートが出来る体制を構築していきます。また、これからの経営基盤になりうる『アルミ線用端子』の事業拡大を急務とし、環境に配慮した商品の取り扱いを積極的に拡大していきます。

引き続き、事業活動に伴う環境負荷の抑制に努め、持続可能な社会作りに貢献してまいります。

2023年3月

代表取締役社長 山本 廣明

弊社の環境経営レポートをご覧くださいましてありがとうございます。

環境経営レポートにも報告しておりますように、弊社では「環境に優しい商品」の販売に努めております。その対象としております環境商品について、以下に紹介させていただきます。

## ① オレンジボックス（PCB保管箱）

オレンジボックスは、特別措置法で規制されています「PCB（Poly Chlorinated Biphenyl = ポリ塩化ビフェニール）廃棄物」を安全に保管する堅固な容器です（PCB保管箱）。



PCB廃棄物を保管する容器です。

## ② アルミ線用端子

近年トランス業界や電力線業界、自動車業界では、銅価格の上昇以外にも「製品重量の軽量化≒省エネ」を目的として銅電線のアルミ化を促進させる動きがあります。しかしアルミ電線の接続には大きな課題（電解腐食、酸化被膜、強度低下、応力緩和）があり、実用化阻害の大きな要因となっています。弊社では、これらの課題を解決するアルミ電線用の接続端子技術を販売しております。



限りある資源の銅線をアルミ線に変更する事が出来ます。

### ③ ハイブリッド溶接機

ビルの鉄筋コンクリート構造とは、引張に強い鉄筋と圧縮に強いコンクリートを組合せたものですが、帯筋を溶接構造の閉鎖型にすることで耐震性を更に高めることができます。近年ビルの高層化に伴い鉄筋には高強度材が多く採用されるようになってきました。

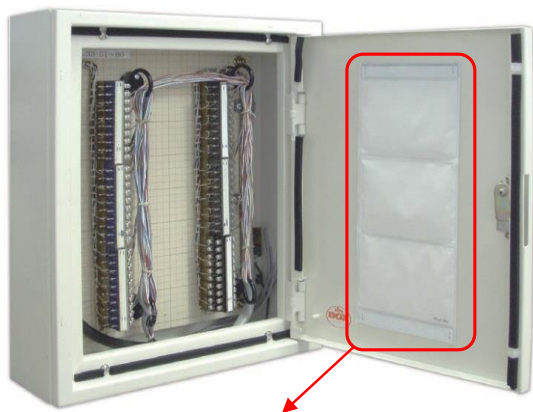
弊社の溶接機は、複合溶接工程（ハイブリッド溶接）方式を採用することで、高強度材鉄筋を高性能（強い接合強度）、高信頼性（安定した品質）、そして経済的（短時間）に溶接することが出来る装置です。



従来の溶接機と比較して、電力消費量を大幅に削減が出来る溶接機です。

### ④ G-ブレス

結露防止シート「G-ブレス」は、調湿特性にすぐれた特殊な高分子ポリマーが設備の結露を防ぎ、トラブルを未然に防止する高性能な設備保全アイテムです。電力を使用せずR o H S 指令にも適合した環境にやさしいエコロジーな製品です。



通信専用端子盤へのG-ブレス施工例



結露を防止する商品で、端子台等が錆による不良品になる事を防ぎます。

【お電話でのお問合せ先】 03-5958-9411 （平日9:00～17:00）

- ① オレンジボックス（菅原）
- ② アルミ電線用接続端子（賀川、菅原）
- ③ ハイブリッド溶接機（坂本）
- ④ G-ブレス（菅原、石橋）

土・日・祝・時間外はWEBフォームからお問合せ下さい。

<http://www.hakusanshoji.co.jp/index.html>